

分子科学研究所所長招聘会議 公開WEBシンポジウム 『光り輝く博士課程卒業生』

表記の所長招聘会議『光り輝く博士課程卒業生』が2020年6月3日の午後 WEBシンポジウムとして開催されました。毎年、日本学術会議化学委員会、日本化学会戦略企画委員会、および、分子科学研究所の共同主催として、社会と学術に関わる重要な課題について化学の視点から議論を行っています。今年も、世界中に緊急事態をもたらしたCOVID19の影響で開催の延期なども検討された中、川合所長の力強い支援のもと、ZoomによるWEB会議として開催することができました。

今回のテーマは、学術会議化学委員会でも議論されてきた検討課題の一つで、世界におけるわが国の研究力低下の問題に対する解決策を考える中、企業で活躍する博士の重要性を検討・再認識し、今後の指針について議論することとしました。6名の講師（ポスター参照）により、様々な視点から博士の存在意義と課題について講演をいただきました。学術界においても今や世界

を席卷している中国の最新事情（中国の2020年改革）を注視しながら、わが国の若手研究者活性化のための新たな施策について考えるとともに、産業界における博士課程卒業生の意義と期待について見解が示されました。また、博士人材に関する様々な角度からの調査データに基づき詳細な解析結果が示されるとともに、研究最前線の若手研究者から、企業での経験について生の声を聞くことができました。さらに、化学系企業での博士の活躍状況と調査結果に基づく提言もいただきました。すべての講演が示唆に富む貴重な内容で、そのあとの総合討論も白熱したものになりました。WEB討論では意思疎通に不十分な点もあったかもしれませんが、一方でWEB会議にはどこにいても参加ができるメリットがあり、例年より多い100名を超える参加者がありました。貴重な講演は、若い学生、研究者にも聞いてもらうのが良いという意見も出され、今回の記録ビデオを

今後活用できればと思っています。最後にZOOM会議の準備、運営でご尽力いただきました岡本裕巳教授・研究総主幹をはじめ担当の方々に心より感謝申し上げます。

(北海道大学 加藤 昌子 記)

分子科学研究所所長招聘会議 公開WEBシンポジウム

光り輝く博士課程卒業生

開催日 2020年6月3日 水
13:00 - 17:00

13:00	挨拶 川合 昌紀 (分子科学研究所所長)
13:05	報告 加藤 昌子 (日本学術会議化学委員会委員長、北海道大学教授)
13:10	趣意説明
13:15	中村 栄一 (東京大学特任教授) 「博士課程の目指すこと、その評価、中国の2020年改革に学ぶこと」
13:45	橋本 邦仁 (理研・材料開発部(AMS) 室長) 「若手研究者の活性化に向けて：CSTIの働きを中心」
14:15	小林 寛光 (国産タネホルホル・デュラテック) 「博士課程卒業生への期待」
14:45	休憩
15:00	磯谷 佳介 (分子科学研究所 学術総務課長 (MS) 室長) 「データからみる日本の博士人材の現状と課題」
15:30	基本 昌彦 (分子科学研究所 学術総務課長) 「企業での経験と今の自分」
16:00	長瀬 公一 (分子科学研究所 学術総務課長) 「化学分野での博士の活躍状況、博士課程で学んで良かったこと」
16:30	総合討論

主催：日本学術会議化学委員会、分子科学研究所、分子科学研究所学術総務課、公開WEBシンポジウム実行委員会、公開WEBシンポジウム実行委員会事務局
共催：IMS、分子科学研究所学術総務課、IMS事務局、分子科学研究所学術総務課、IMS事務局
お問い合わせ先：IMS事務局 伊藤 雅也 (IMS) / IMSシンポジウム事務局 (IMS) / IMS事務局 (IMS)
http://www.ims.sci.jp/research/sem/2020/06/03_4576.html

共同利用推進室立ち上げ

2020年5月1日より共同利用推進室が設置され、中村が室長を拝命しました。今後、各施設のスタッフ、戦略室や共同利用係の方々とともに、分子研の共同利用を使い良いものにして参ります。皆様のご協力無しには出来ませんが、私も精一杯尽力致しますので、何卒よろしくお願い致します。言うまでもなく、分子研は大学共同

利用機関であり、共同利用研究の推進が最大のミッションです。研究系、附属施設のこれまでの大きな努力により、分子研は大きな役割を果たしてきました。一方で、若手人口の減少や研究予算の削減などもあり、分子研の期待される役割も変わりつつあります。汎用・先端にかかわらず、すぐに稼働できるいわゆる「温かい装置」を提供するこ

とが求められています。

分子研の附属施設として、極端紫外光研究施設 (UVSOR)、機器センター、装置開発室、加えて岡崎共通研究施設として計算科学研究センターが存在します。ユーザーの利便のため各施設には独自の共同利用の仕組みやサービス、ホームページが出来ており共同利用の一助になっています。しかしながら網